



《安全管理》 MRSA 感染率

<項目解説>

MRSA (methicillin-resistant staphylococcus aureus) とは、 β -ラクタム系抗菌薬をはじめとする多くの抗菌薬に、耐性を示す黄色ブドウ球菌のことで、難治性の感染症を引き起こす病原菌として知られています。正常な免疫機能を持っている人にはほとんど問題にはならない細菌ですが、免疫力の低下した重症患者や高齢者、乳幼児などに感染すると、大変危険な状況を引き起こします。それによって入院期間の延長や医療費の増大にもつながります。MRSA 感染率の評価をすることは院内感染対策の指標の1つとなります。

<当院の実績>

【平成24年度】	0.01%
【平成25年度】	0.03%
【平成26年度】	0.01%

<当院の自己点検評価>

MRSA(黄色ブドウ球菌)は非常にありふれた菌で、私たちの髪の毛や皮膚、鼻の粘膜、口腔内、傷口などによく付着しています。

しかし、基本的に弱毒菌のため、私たちの抵抗力がしっかりあれば特に重症化することはありませんが、①無菌室が必要になるくらい抵抗力が低下した場合、②大手術の後、③重症の熱傷(やけど)を負った場合、④血管内にカテーテルを長時間入れている場合、などでMRSAに感染すると様々な病気を起こしやすく、なおかつ治療しにくい状態となります。

従って、当院では医療行為の前後には手洗い・手指消毒の徹底や手袋の着用などマニュアルに基づいて、院内の感染防止に努めています。

<定義>

新規 MRSA 感染率

感染率の単位は、「‰」(パーミル=1/1000)を用いての算出する場合がありますが、ここでは、一般的に馴染みがある「%」を単位とします。

<算式>

分子：新規MRSA感染患者数
分母：入院患者延べ数